【検査について】

１．検査はいつまで実施する予定ですか

いつまで検査募集するかは明言できませんが、当面は継続する予定です。

２．検体公募の抽選に外れた場合の救済措置はありますか

救済措置はありませんので、翌月以降の検体募集に応募してください。

３．今回の国による検査について、費用負担はあるのか

国による検査において、提供された検体費、送料、検査費用は全額国で負担します。

４．独自で検査機関に依頼して検査可能ですか。また、その場合費用負担をしてもらえるか

事業者が独自に検査機関に依頼し検査すること可能ですが、中国側にその検査結果を認められるかは保障できないため、国の検査に応募していただくことを推奨します。

なお、事業者が独自に検査を依頼する場合は、全て自費負担となります。

５．国が実施する検査の検査機関を教えてください

事業者が直接検査依頼するなどの連絡が殺到して、検査機関が対応に苦慮し、検査の進捗が遅れるなどの問題が起きる可能性があることから、検査機関の公表は行っていません。

なお、国が検査委託する検査機関の検査枠の余剰分は現時点でありません。

６．中国側の放射性ストロンチウム 90 及びトリチウムの基準値を教えて下さい

放射性ストロンチウム 90 が 290Bq/kg、トリチウムが 65 万 Bq/kg です。

７．放射性ストロンチウム及びトリチウムの検査の結果、中国側の基準値を超えた場合どうなるか

現在の ALPS 処理水の放出状況を踏まえると、放射性ストロンチウム及びトリチウムが中国側の基準値を超過することは想定していませんが、仮に基準値を超過した場合、衛生証明書の発行ができないため、輸出はできません。

８．魚醤や調味料などの製造会社であっても、原料の検査は必要か

検査が必要になります。

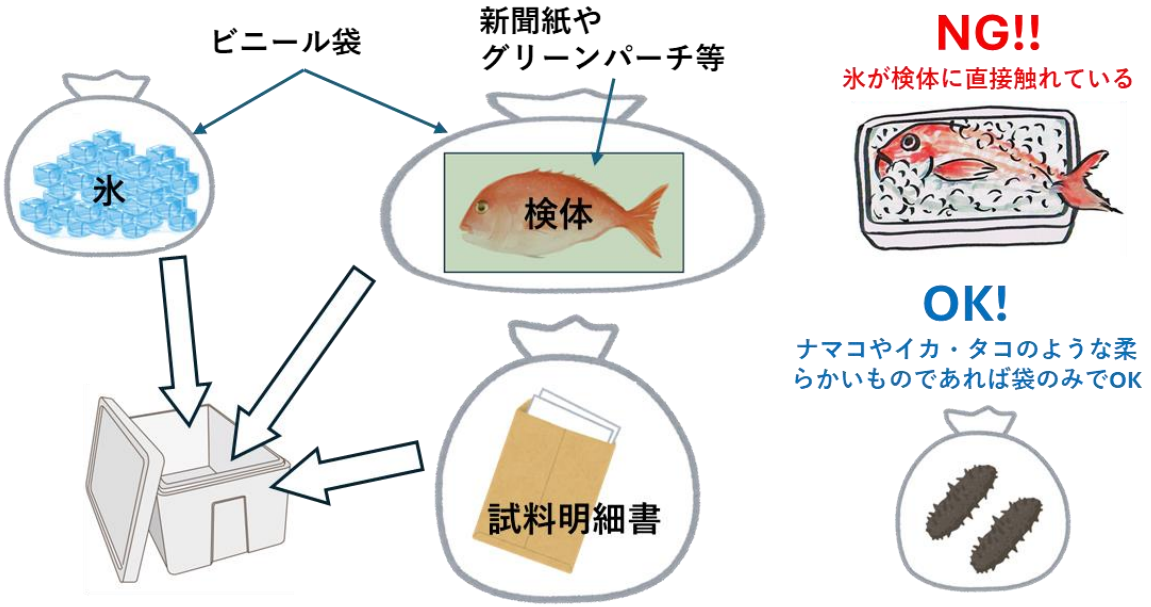
９．外国産の原料を国内で加工して中国に輸出する場合であっても検査は必要か

検査が必要になります。

【検体について】

1．検体発送時の梱包の方法について教えてください

発泡スチロールに「検体」、「試料明細書」と「氷」を入れてください。その際、氷や氷水（つまり水）が直接検体に触れないようにしてください。鰭などにより袋が破損しないよう、検体を新聞紙やグリーンパーチ等で包み、ビニール袋に入れて封をしてください。



2．魚やエビ・カニなどの甲殻類の場合、どの状態で検査機関に発送すればよいか

魚やエビ・カニなど甲殻類については、生の原料重量（甲殻類は甲殻付き）2.5kg をご用意ください。

3．乾燥コンブ、乾海苔や乾燥ナマコの場合、どの状態で検査機関に発送すればよいか

乾燥コンブ、乾海苔や乾燥ナマコについては、原則、生の原料重量１kg をご用意ください。原料をどうしても入手できない場合は、乾燥状態のものを 100ｇご用意ください

4．ホタテやカキ等の貝類やウニの場合、どの状態で検査機関に発送すればよいか

殻は不要ですので、可食部であるむき身の状態で１kg をご用意ください。

5．クラゲの場合、どの状態で検査機関に発送すればよいか

クラゲについては、生の原料重量１kg をご用意ください。塩蔵状態の場合は、水戻しして１kg ご用意ください。

6．塩蔵品の場合、どの状態で検査機関に発送すればよいか

塩蔵品については、生の原料重量１kg をご用意ください。生の原料が手に入らない場合は、水戻しして１kg ご用意ください。